国土交通省
国土地理院

国土地理院広報



2026年9月発行　　第699号





地図と測量の科学館の展示をご覧になる悠仁親王殿下

写真:宮内庁提供

CONTENTS

1. 悠仁親王殿下のご来館～20 歳のお誕生日に当たり～ …… 2
2. 2026夏休み各種イベントを実施 …… 3
3. 地図展2026つくば開催 …… 5
4. UN-GGIM第16回会合への参加報告 …… 6
5. 第 252 回地震予知連絡会の開催概要 …… 7
6. 「自然災害伝承碑」ウェブ地図「地理院地図」での公開数 …… 9
7. 8月の報道発表・10月の主な行事予定 …… 9

悠仁親王殿下のご来館～20 歳のお誕生日に当たり～

地図と測量の科学館（茨城県つくば市）に悠仁（ひさひと）親王殿下がご来館されました。

８月、悠仁親王殿下が地図と測量の科学館に来館されました。

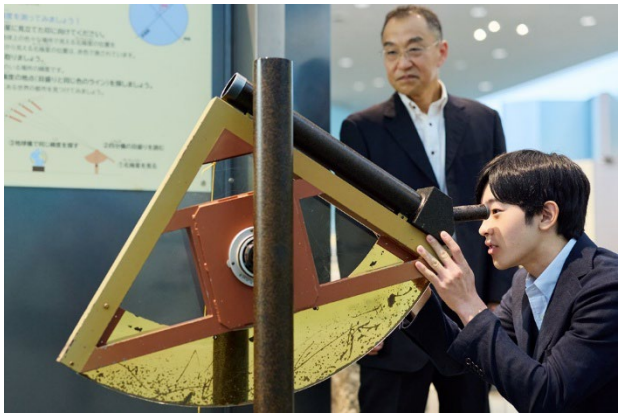
撮影されたお写真及び映像は「悠仁親王殿下20歳のお誕生日に当たり」として、9月6日宮内庁ウェブページに公開されました。

ここではご来館の様子についてご紹介します。

ご来館当日、予定の時間になると悠仁親王殿下は柔らかな表情でご到着され、お迎えした河瀬和重（かわせかずしげ）院長と丁寧に挨拶を交わされました。

ご案内は長谷川裕之（はせがわひろゆき）企画部長が務めました。

最初に2階常設展示室の「古代のナビゲーター」で四分儀により緯度を測る体験をされました。



古代のナビゲーターを体験される様子

続いて、同じく2階に展示している「明治の東京中心部」の地図をご覧になり、赤坂御用地の明治10年代の姿をご確認されました。



明治時代の東京中心図をご覧になる様子

1階ロビーの「日本列島空中写真マップ」では、赤青メガネをつけて立体的に見える山地や海底地形など、地図上を歩きながらご覧になりました。

悠仁親王殿下は地形を見るため地理院地図をご使用されているとのことで、説明に対して、うなずきながら熱心にお聞きになられ、時折質問を交えて興味深く展示をご覧になっておられました。





日本列島空中写真マップでの様子

写真：宮内庁提供

悠仁親王殿下は対応した当院職員一人一人に丁寧にお礼を述べられ、お帰りになられました。

地図と測量の科学館は、私たちの生活に欠かせない地図や測量の役割を、誰もが楽しみながら学び、体験できる施設です。皆様のご来館を心からお待ちしています。

地図と測量の科学館ホームページ
https://www.gsi.go.jp/MUSEUM/

（総務部）

2026夏休み各種イベントを実施

地図と測量の科学館（茨城県つくば市）で、こどもから大人まで幅広い年齢層の方々に向け、私たちの生活にかかせない地図や測量の役割を楽しみながら学び、体験できるイベントを実施しました。

○夏休みイベント

今年の夏休みイベントは、7月29日、30日、8月26日、27日の4日間にわたり三つの体験イベントを実施するとともに、「地図・測量に関する相談コーナー」を開設しました。

「空中写真立体視体験」は、スクリーンに投影された重なり合う2枚の空中写真を、偏光グラスを通して“立体視”体験するコーナーです。

つくば駅周辺の空中写真がスクリーンに映し出されると、参加者は興味津々に見入っていました。



「歩測チャレンジ！」は、歩幅を使い2点間の距離を自分の足だけで測ってみようというものです。

家族や友人同士で歩測し、誰が正解に近いかを競い合うなど、楽しみながら体験していました。



「日本列島地図一筆描き」は、お手本の日本地図を見ながら一筆で描いた地図を、コンピューターが採点するというもので、毎回人気のイベントです。

点数に納得できずに何度もチャレンジするお子様や、親子で点数を競い合うご家族など、楽しんでいただけた様子でした。高得点の優秀作品はボードに貼り出され、多くの来場者がその見事な出来映えに驚きの声を上げていました。



「地図・測量に関する相談コーナー」では、毎年、地図や測量に関する疑問や相談、夏休みの自由研究に協力しております。

地図記号の移り変わりや、伊能忠敬の測定方法での地図作成など、幅広い質問・相談がありました。



○職場体験学習

測量・地図に対する意義や理解の促進を図るとともに、学習意欲の喚起、勤労観及び職業観の育成に資することを目的に、毎年度、複数校の中学生を対象に職場体験学習を実施しています。

7月15日、開成中学校（東京都荒川区）から3名の生徒が参加しました。「地理院地図に触れてみよう」では、自分で作る色別標高図や、地図と写真を並べて比較する操作に興味津々の様子でした。

「地理院地図の使い方を詳しく教えていただき、便利な機能をしっかりと理解することができたので、これからの学習に十分に活用していきたい。」、「地図のある生活という「当たり前」を支えてくださっている方々のお話を直にお聞きし、僕たちの生活が多くの人に支えられているのだと深く感じました。」などの感想が寄せられました。



パソコンで地理院地図の操作体験

7月23日、みどりの学園義務教育学校（つくば市）から6名の生徒が参加しました。国土地理院の役割や地球上の位置の表し方などを座学で学んだ後、2階展望室で「トータルステーションによる測量体験」に挑戦しました。

「町中で見かけたことがある測量機器の使い方と、理論の両方を体験できるすばらしい機会でした。」、「たくさんの職員の方とお話しができ、自分の将来の進路についての考え方を深めることができました。」などの感想が寄せられました。



測量体験前の操作説明

7月31日、大穂中学校（つくば市）から4名の生徒が参加しました。「地図作成工程実習」では、初めて操作するデジタルステレオ図化機を使い、空中写真画像を立体視し、マウス操作により3次元地形データを作成していく工程を体験しました。

「マウス操作で地図作成するのは凄い、感動しました。」、「国土地理院に就職したい。」などの感想が寄せられました。



職員の指導を受けながら図化体験

地図と測量の科学館では、今後も様々なイベントを企画し、随時、ホームページやX等でお知らせしますので、ぜひご来館ください。

「地図と測量の科学館」ページ
https://www.gsi.go.jp/MUSEUM/

（総務部）

地図展 2026 つくば開催

地図と測量の科学館(茨城県つくば市)において、「第59回地図展2026つくば－常陸の先人から研究学園都市・つくばへ－」を10月24日(土)から11月1日(日)まで開催します。

「地図展」は、測量・地図の関連団体が組織する地図展推進協議会が主催し、広く国民の皆様に地図をとおして国土や地域についての理解を深めていただくとともに、より一層地図に親しみ、地図を利用していただくことを目的として実施しています。

つくば市での開催は初めてで、開館30周年を迎えた地図と測量の科学館が会場となります。

私たちの暮らしに深く息づく地図の過去・現在・未来を俯瞰・展望し、その奥深い魅力に触れていただく絶好の機会です。

皆様のご来場を心よりお待ちしています。

1. 開催期間
   令和８年10月24日(土)～11月1日(日)
   9:30～16:30
2. 開催場所
   国土地理院「地図と測量の科学館」
   茨城県つくば市北郷1番
   https://www.gsi.go.jp/MUSEUM/
3. 入場無料
4. 主催
   地図展推進協議会、国土地理院

【主な展示物】
・つくば市空中写真
・つくば市の変遷
・古地図展
・つくば市の時層地図
・くにかぜ機内公開　11月1日(日)　雨天中止

【特別企画】
・講演会　10月25日(日)
　特別講演：地図大使　石原　良純　氏
　　『地図と空を飛ぶ
　　～眼下に広がる地図景色～』
　基調講演：法政大学文学部教授
　　米家　志乃布　氏
　　『江戸の地図と出版文化』

・ミニ地図地理検定　期間中毎日実施
　地図力、地理力を試してみませんか？
・キッズデー　10月25日(日)、31日(土)
　球体カプセルを使って小さな地球儀を作ってみよう！
・歩測チャレンジ　11月1日(日)　雨天中止
　一歩(歩幅)を測って、歩測で距離を調べてみよう！

※キッズデーは事前予約が必要です。



地図展URL
https://www.jmc.or.jp/keihatsu-kyouiku/chizuten/

地図展　地図と測量の科学館

（総務部）

UN-GGIM 第 16 回会合への参加報告

「地球規模の地理空間情報管理に関する国連専門家委員会（UN-GGIM）」は、国連経済社会理事会（ECOSOC）の下に設置され、地理空間情報の整備と利活用を通じて地球規模の政策課題を解決するため、加盟国の間で広く議論、調整等を行っています。国土地理院は、2026 年 8 月に国連本部（米国・ニューヨーク）で開催された UN-GGIM 第 16 回会合に我が国代表として参加しました。

会合は、8月5日から7日に対面形式で開催されました。78の国・地域及び国際機関等から358名の専門家が参加し、国土地理院からは、飯田洋（いいだよう）基本図情報部長、宮原伐折羅（みやはらばさら）測地観測センター長、宮下妙香（みやしたたえか）企画部国際課長、石垣眞史（いしがきまさふみ）測地部宇宙測地課課長補佐が出席しました。



議場の様子

会合では、SDGsや気候変動など、地球規模の課題解決への地理空間情報の貢献について加盟国から活発な発言がありました。日本からは次の議題に対して発言を行いました。

議題「地球規模の地理空間情報管理体制の強化」では、国連全体の業務効率化・コスト削減のための「UN80イニシアティブ」が進む中、困難な状況においても事務局が果たしている献身的な働きとリーダーシップに敬意を表し、国連本部外に設置された地理空間グローバルセンターの活動への貢献の継続を表明しました。議題「地球規模の測地基準座標系」では、測地小委員会執行部及びUN-GGIMアジア太平洋地域委員会（UN-GGIM-AP）の測地基準座標系の作業部会長として、測地サプライチェーンの持続可能性の強化への貢献を表明するとともに、測地VLBIの周波数帯域を保護する重要性を訴え、ITU世界無線通信会議2027（WRC-27）に向けた連携への積極的な関与を表明しました。また、地球規模の測地連携拠点（UN-GGCE）が発表した「測地の現状2026」報告書を高く評価し、VLBI専門家によるオンライン支援等を通じた貢献の継続を表明しました。







各議題への日本からの介入（発言）の様子

会合に先立つ8月3日、4日には、UN-GGIMに設置された小委員会や専門家グループ等によるサイドイベントが開催され、測地サプライチェーン・気候環境レジリエンス・地理空間エコシステムとAI・陸海政策連携といったUN-GGIMの主要な議題に関するフォーラムに参加しました。

また、会議の合間には各国の政府代表団と対話を行って、今後の活動に向けて情報収集や連携強化の議論等を行いました。

本会合の会議文書等の情報は国連Webページで公開されており、関連ドキュメントや会議の録画を参照することが可能です。

https://ggim.un.org/meetings/GGIM-committee/16th-session/

国土地理院は、引き続きUN-GGIMに参加し、UN-GGCE等と連携して国際活動を積極的に推進していきます。

（企画部・測地部・基本図情報部・測地観測センター）

第252回地震予知連絡会の開催概要

8月28日に関東地方測量部において第252回地震予知連絡会がオンライン会議併用形式にて開催され、全国の地震活動、地殻変動等のモニタリングについての報告のほか、重点検討課題に関する報告・議論が行われました。なお、今回の重点課題は、令和8年熊本地震の発生を受けて「昭和南海地震から80年～南海トラフ地震に向けた調査観測研究の現状～」から「令和8年熊本地震」に変更しています。



第252回地震予知連絡会の様子（オンライン併用）

地震予知連絡会では、地震予知研究にとって特に検討すべき課題を「重点検討課題」として選定し、報告とそれを基にした議論を行っています。今回は「令和8年熊本地震」を課題として、関係機関、委員、招聘報告者から以下の①～⑪の報告がありました。

① 「令和8年熊本地震」について

2026年7月28日16時27分に熊本県熊本地方の深さ16kmでM7.1の地震（最大震度7）が発生しました。この地震は地殻内で発生しました。この地震の発震機構（CMT解）は北北西－南南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型です。

この地震の震央周辺では、M7.1の地震発生以降、活発な地震活動が継続しており、7月28日16時以降8月25日10時までに震度1以上を観測した地震が711回（震度7：1回、震度5弱：5回、震度4：23回、震度3：70回、震度2：171回、震度1：441回）発生しています。

② 令和8年熊本地震に伴う地殻変動・震源断層モデル・地表変位境界

GNSS連続観測により、熊本地方を中心に大きな地殻変動及び余効変動を観測しました。また、GNSS及び「だいち2号」「だいち4号」のSARデータ解析に基づき震源断層モデルとすべり分布を推定するとともに、3次元地殻変動分布を求めました。さらに、空中写真や数値標高モデルから地表変位境界を明らかにし、最大約2.1mの右横ずれを確認しました。

③ 令和8年熊本地震による高周波エネルギー輻射量

令和8年熊本地震後の地震活動について、地震波の高周波エネルギー輻射量の解析を行いました。平成28年熊本地震の最大前震後及び本震後と比較すると、今回の積算高周波エネルギー輻射量は少ないです。また積算輻射量は、今回と同規模の地殻内地震として平均的な値となっています。

④ 地表地震断層と地質構造から見た令和8年熊本地震

2026年7月28日に発生した令和8年熊本地震（Mj7.1）の際には日奈久断層帯が活動したと考えられています。本報告では、日奈久断層帯の地質構造等に関する近年の調査研究の概要を述べるとともに、産総研による緊急現地調査の実施状況、その結果にもとづいた令和8年熊本地震によって生じた地表地震断層の分布・特徴について報告しました。

⑤ 2016年M7.3熊本地震後の余震活動の推移と2026年M7.1熊本地震の余震活動について

2016年4月に発生した平成28年熊本地震（M7.3）から2026年の令和8年熊本地震（M7.1）までの約10年間の余震活動をETASモデルをあてはめ解析しました。その結果、熊本地域の余震活動は時間の経過とともに減衰しました。しかし、時空間分布に着目すると、発生後約1年から余震活動の南西方向へのマイグレーションが顕著に認められます。

一方、今回のM7.1地震では発生後約1か月までの時点では、その傾向がわずかに見られるものの、まだ明瞭でありません。今後、マイグレーションへ発達するかどうかを継続的に監視する必要があります。

⑥ 地震活動特性からみた2026年熊本地震

令和8年熊本地震は、平成28年熊本地震の破壊域南西部に位置する日奈久断層で発生しました。この地域は平成28年熊本地震以降に地震活動が活発化していた領域であり、同地震によって地震を起こす力が増加した可能性がある領域に対応しています。今回の震源断層は北西傾斜を有し、その南西部では傾斜が緩やかになる特徴が認められました。今回の地震はそのような応力集中が想定される領域で発生したものであり、さらに南西側においても同様の状態が続いている可能性があります。将来の地震の発生時期や規模を予測することはできないものの、引き続き注意が必要です。熊本地域はこれまで比較的詳細な調査が行われてきた地域であり、本事例からも稠密な観測及び調査の重要性が改めて示されました。今後も継続的な観測と調査を実施し、地殻活動の変化を的確に捉えていくことが重要です。

⑦ 令和8年熊本地震とb値※の時空間分布―日奈久断層帯における事前の指摘との対応―

平成28年熊本地震後に日奈久断層帯の中部に低b値の領域を検出し、2019年に日奈久断層で応力集中があることを公表しました。令和8年熊本地震の破壊域は、このときに指摘したb値が低い領域を含んでおり、震源もb値が低い領域にありました。今回の地震以降、破壊域の中心ではb値が増加しましたが、日奈久断層南限周辺には、引き続きb値が低い領域が存在しており、今回の地震で応力が解放されなかったことを示唆しています。また、速報の断層モデルを用いたクーロン応力変化の計算では、南延にあたる八代海付近で破壊が促進される方向に応力が増加する結果が得られました。

⑧ 平成28年熊本地震による地震活動度変化と令和8年熊本地震

平成28年熊本地震後の10年間、九州中部の地震活動はクーロン応力変化から予想された通りに、活発化と静穏化が認められました。日奈久断層帯は顕著な正のクーロン応力変化であり、10年経過しても周辺の地震活動は平成28年熊本地震前の最大数倍のままで、30年確率の増加が試算されました。日奈久断層の八代海区間、阿蘇地域、島原半島、宮崎県北部は平成28年熊本地震、令和8年熊本地震のクーロン応力変化が双方とも正となり、地震活動の活発化が懸念されます。

⑨ 2026年熊本地震の地表地震断層：変位量分布と2016年地震断層の再変位

2026年熊本地震に伴う日奈久断層帯における地表地震断層を明らかにするために現地調査を行いました。日奈久断層帯の高野―白旗区間及び日奈久区間の一部に全長38kmの地表地震断層を確認し、日奈久区間中・北部において右横ずれ変位量は最大1mを超えました。また、両端に向かって変位量が減衰する様子もみられました。高野―白旗区間南部では地表地震断層の連続性が悪く、変位量も小さいです。高野―白旗区間南部では、2016年の地震に伴い地表地震断層が確認された箇所と同じ箇所に地表地震断層が出現しました。

⑩ 日奈久断層帯における古地震調査結果と令和8年熊本地震

平成28年熊本地震後に、文科省委託業務「平成28年熊本地震を踏まえた総合的な活断層調査」の一環として、日奈久断層帯の3地点でトレンチ調査を行い、同断層帯の古地震履歴を明らかにしました。令和8年熊本地震の際に、上記トレンチ調査で確認された断層が再度動いたのかどうかを調べるために、現地調査を行いました。その結果、3地点において、トレンチ調査で断層が確認された場所の直近に地表地震断層が認められました。

⑪ 平成28年熊本地震を踏まえた総合的な活断層調査（平成28～30年度）による日奈久断層帯の強震動評価と令和8年熊本地震

平成28年熊本地震を踏まえた総合的な活断層調査（平成28～30年度）サブテーマ3（強震動予測の高度化）では、未活動区間である布田川断層帯（宇土区間、宇土半島北岸区間）、日奈久断層帯の強震動予測高度化を目的として、調査研究を実施しました。日奈久断層帯が活動した場合に強い揺れに見舞われる可能性の高い八代平野等を中心として、地盤構造探査を実施し、浅部・深部地盤構造モデルの高度化を行いました。日奈久断層帯が活動した場合の予測地震動は、八代平野や熊本平野南部で強い揺れに見舞われるなど、令和8年熊本地震で観測された震度分布をよく説明しています。

○次回の会議開催予定

第253回地震予知連絡会は、11月26日（木）に開催予定です。また、次回の重点検討課題は「昭和南海地震から80年～南海トラフ地震に向けた調査観測研究の現状～」です。

○会議資料の公開

本会議の資料は、地震予知連絡会ホームページから公開されています。

https://cais.gsi.go.jp/YOCHIREN/activity.html

（地理地殻活動研究センター）

※ b値：地震の規模別頻度分布の傾き。大きな地震に対する小さな地震の相対的な多さを表す。

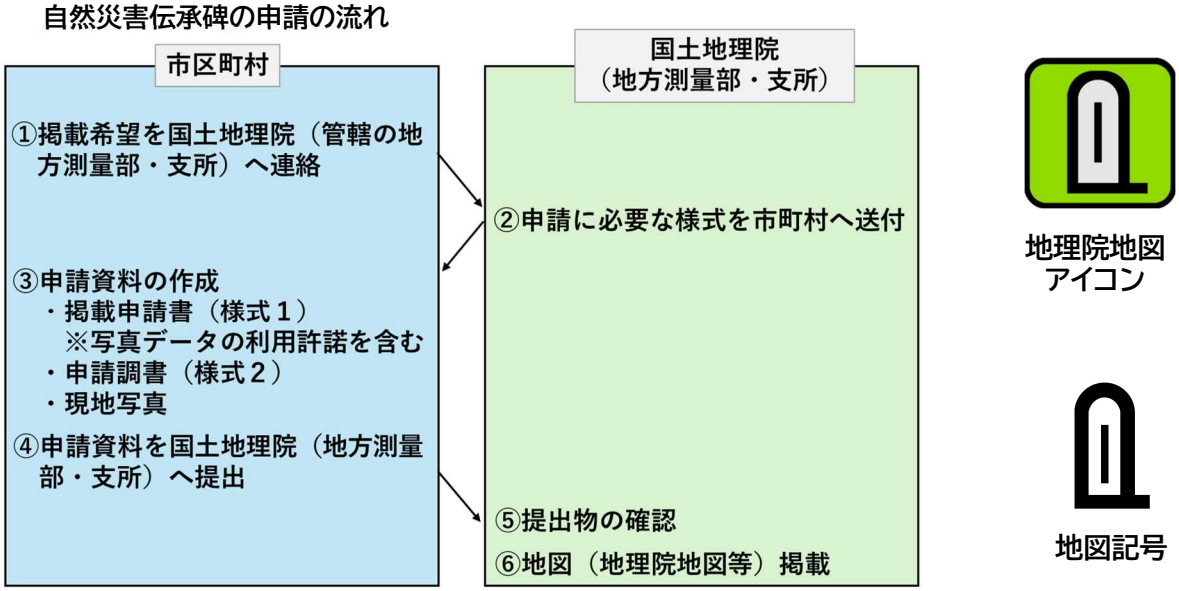
○「自然災害伝承碑」 ウェブ地図「地理院地図」での公開数

令和8年9月25日現在

47 都道府県	686 市区町村	2481 基

詳細については、自然災害伝承碑のページ(https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi)をご覧ください。
[市区町村の担当者の皆様へ]自然災害伝承碑に関する当院への情報提供にご協力をお願いいたします。

自然災害伝承碑の申請の流れ



様式や手続きの詳細は以下のページをご覧ください。
https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi_info.html

○8月の報道発表

発表日	件名	担当部署
10日	令和8年7月の地殻変動	測地観測センター 地理地殻活動研究センター
10日	熊本地震に伴い八代海沿岸地域では浸水や冠水にご注意ください	防災・地理空間情報企画センター
12日	令和8年熊本地震時の電子基準点1秒解析結果	測地観測センター
24日	「地理空間情報の活用促進のための協力協定」を締結 留萌市の行政サービス向上や迅速かつ効果的な防災・減災の推進を図ります	北海道地方測量部
28日	令和9年度　国土地理院関係予算概算要求について	企画部

報道の内容は、国土地理院ホームページ>2026年 報道発表資料一覧
(https://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/press-2026.html)をご覧ください。

○10月の主な行事予定

月日	行事
10/24～11/1	地図展2026「つくば」

国土地理院広報は、
国土地理院ホームページ＞広報誌＞国土地理院広報
(https://www.gsi.go.jp/WNEW/koohou/)に掲載しています。

発行　国土交通省国土地理院
Geospatial Information Authority of Japan
〒305-0811 茨城県つくば市北郷１番
TEL 029-864-6255
FAX 029-864-6441
連絡先：総務部広報広聴室
国土地理院ホームページ
https://www.gsi.go.jp/